

火災による高齢者の死者が増加しています

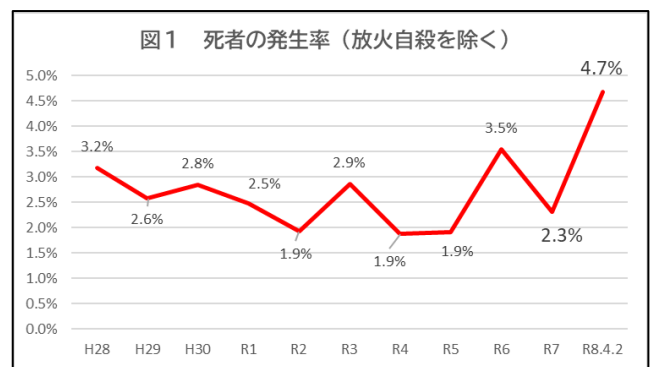
～ 火災の早期発見と避難に有効な住宅用火災警報器を設置しましょう！ ～

- ・ 火災件数が減少する一方で、死者の割合が昨年比で2倍に増加しています。
- ・ 全死者数の7割が65歳以上の高齢者となっています。
- ・ 死者が発生した9件の住宅火災のうち6件で住宅用火災警報器が未設置でした。

1 火災に伴う死者の割合が増加

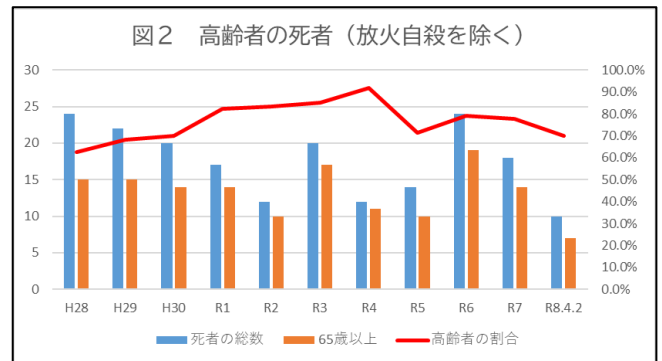
令和8年1月1日から4月2日までの火災件数は、214件で、前年同期と比べ35件減少していますが、放火自殺を除く死者数は10人で昨年と同数となっています。

火災件数に対する死者数の割合は昨年比で約2倍に増加しています。



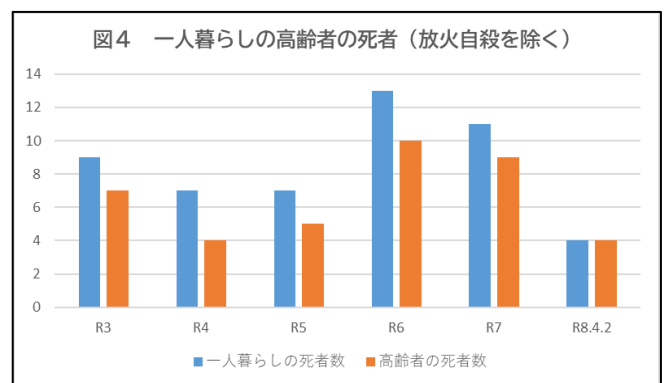
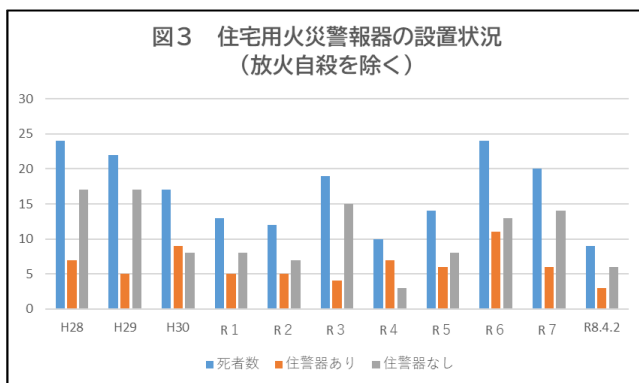
2 高齢者の火災による死者数

令和8年4月2日時点で、火災による死者（放火自殺を除く）は10人、全死者数の7割が65歳以上の高齢者となっています。過去10年間に於いても、火災による死者のうち高齢者の割合は高い水準となっています。また、一人暮らしで亡くなった方のすべてが高齢者でした。



3 住宅用火災警報器の設置状況等

死者が発生した9件の住宅火災のうち6件で住宅用火災警報器が未設置でした。



※令和8年の数値はすべて速報値のため、変更することがあります。

※令和8年以外の数値は、1月から12月までの数値となります。

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



○ 住宅用火災警報器の設置・点検・交換をしましょう！

住宅用火災警報器は、火災の早期発見と避難に有効です。特に高齢者の方は、避難に時間を要しますので、住宅用火災警報器を設置し、適切に維持管理していくことが重要です。

また、古くなった住宅用火災警報器は、電池の消耗や内部の部品の劣化により、適切に作動しなくなります。本体は、10年を目安に交換しましょう。

○ リチウムイオン電池の火災にご注意ください！

リチウムイオン電池は、充電して繰り返し使える小型で軽量の電池で、モバイルバッテリーやスマートフォンなど、身近な電子機器に広く利用されています。しかし、誤った使い方や劣化した製品を使用し続けると、火災が発生する恐れがあります。

【こんな時は危険！】1つでも当てはまる場合は、火災の危険があります！

- 熱がこもりやすい場所で使用している
- 膨らみ、変形している
- 過去に落下させたことがある
- 使用中や充電中に発熱することがある
- 充電できないなどの不具合がある
- P S Eマークがない

消防局公式X（旧 Twitter）、横浜市民防災センターFacebook などによる配信や、よこはま防災 e-パークにおいて火災予防の呼びかけを実施しています。



消防局公式X
(旧 Twitter)



横浜市民防災センター
Facebook



よこはま防災
e-パーク

お問合せ先
予防課長 笹尾 Tel 045-334-6601



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

